



避難情報がいたら ～避難情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は、速やかに避難を開始してください～

情報を入力しよう

災害が発生する危険性が高まり、避難する必要が生じた場合に、横浜市は、「避難準備・高齢者等避難開始」、「避難勧告」、「避難指示(緊急)」のほか「屋内での待避その他の屋内における避難のための安全確保に関する措置(屋内での安全確保措置)」の指示を発令します。

自動配信されるもの (PUSH型)

- 横浜市防災情報メール 要事前登録
- 防災アプリ 要事前登録
- Twitterアラート 要事前設定
- 防災グッズ
- 緊急通報メール
- 親水拠点警報装置・河川水位情報システムなど
- 緊急警報放送
- 広報車等による広報

自身で情報収集するもの (PULL型)

- ホームページ
- 横浜トップページ(緊急情報)
- Twitter(横浜市防災Twitter) @yokohama_saigai
- テレビ
- tkv(テレビ神奈川)データ放送
- コミュニティFM放送(エフエム戸塚83.7MHz)

避難情報がたてたら

警戒レベル	発令内容	とるべき行動	避難情報(横浜市)	発表の基準となる水位(イメージ)
警戒レベル5	● 既に災害が発生しており、命を守るための最善の行動をとる。	災害発生情報	大雷雨特別警報等	氾濫発生情報
警戒レベル4	● 直ちに身の安全を確保できる場所へ避難する。 ● 避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難する。	避難指示(緊急)	避難勧告	土砂災害警戒情報等
警戒レベル3	● 避難に時間を要する人(高齢の方、障害のある方(乳幼児等)とその支援者は、避難場所へ避難を開始する。 ● その他の人は、家族などと連絡、持ち出し品の用意など、避難の準備を開始するとともに、危険だと思ったら早めに避難する。	避難準備・高齢者等避難開始	避難準備・高齢者等避難開始	氾濫警戒情報
警戒レベル2	● 避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認する。 ● 避難情報の把握手段の確認をする。	避難準備	大雷・洪水注意等	氾濫注意情報
警戒レベル1	● 災害への心構えを高める。 ● 防災気象情報等の最新情報に注意する。	早期注意情報	早期注意情報	氾濫注意水位

もしもの時にそなえよう

洪水ハザードマップで自宅と避難場所を確認しよう

- 自宅付近が洪水で浸水した時どれくらいの水深になるかの確認をしよう。
- 自宅から避難場所までの道のりや方向を、洪水ハザードマップに書き込みましょう。
- 河川から離れている場所でも下水道などで下水道などがあふれることがあります。

避難時の持ち出し品を確認しよう

- 避難時の持ち出し品は日ごろから準備し、速やかに持ち出せるようにしておきましょう。
- 持ち出し品はできるだけ少なくしましょう。
- 避難場所には食料、水、タオルなど、必要なものを持ちましょう。

側溝や雨水ますを点検しよう

- 側溝や雨水ますをふさがないようにしましょう。
- 雨水ますの取込み口が落ち葉やごみで詰まると、道路浸水の原因になります。
- 雨水ますや側溝の上に車乗り入れブロックなどを置かないようにしましょう。

浸水に備えよう

- 家にあるもので浸水を防ぎましょう。
- 大雨の際には、洗濯機、トイレ、風呂場の排水口など思わぬところから下水が逆流することがあります。

家庭でできる浸水防止対策の一例

- ゴミ収集袋(45リットル)を二重にし、中に半分くらい水を入れ、水のうを作ります。
- 水のうと長めの板などを組み合わせて、浸水を防ぎます。
- プランターをならべ、レジャーシートで包み、浸水を防ぎます。

大雨のときはこんな点に注意しよう

こまめな情報収集を心がけよう

インターネット、テレビ、ラジオ、携帯電話、スマートフォン

集中豪雨に注意しよう

- 突発的かつ局地的な集中豪雨に備えて、ふだんから雨の様子をチェックしておきましょう。

避難の考え方

身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

- 安全な場所へ避難(水平避難)**
- 頑丈な建物の2階以上または、近隣の高い建物へ避難(垂直避難)**
- 建物内の安全な場所を待機(屋内退避)**
- 安全な経路で避難しよう**
- 隣近所へ声をかけ合おう**